

めざす児童生徒像

- ・自ら気づき、考え、判断し、行動する子
- ・何事にも主体的に取り組む子
- ・目標達成に向けて協働して取り組む中で、互いを尊重し、自分も仲間とともに伸び、みんなで高めていく子

※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策	
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)					
				教員	児童生徒	保護者	教員	児童生徒	保護者			
(学校重点項目)	主体性・協働・尊重 含む児童の育成	①②③の姿を目指している教員・児童が、中間・・・85%以上 年度末・・・90%以上	① やさしい心で考え行動できる姿を目指している。	100	96.7	-3.3	100	92.9	-7.1	・①③に関しては教員、児童とも目標指数の90%を超えることができた。 ・②に関しては教員は100%であったが、児童は85%にとどまった。	・教員と児童で、より良い学びに向かう姿を具体的に共有していく。 ・教師は、学びに向かっている児童の様子を丁寧に観察しほめてのばすようにする。	
			② 自ら学びに向かう姿を目指している。	100	89.1	-10.9	100	85.6	-14.4			
			③ 互いに認め、高め合う姿を目指している。	100	91.7	-8.3	100	94.5	-5.5			
			集計	100	92.5	-7.5	100	91.0	-9.0			
石川県共通重点項目	業務改善 働き方	①②とも意識的に行っている教員が80%以上	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	94.7			94.4			・①②とも目標指数としている80%を超えることができた。	・担当業務を明確にして、常に改善の意識をもって取り組み、働きやすい職場環境を作っていくようにする。	
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができています。	89.5			94.4					
小松市共通重点項目	学校研究	①②の平均が 中間・・・85%以上 期末・・・90%以上	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	100			100			①②ともに目標指数としている割合を越えることができた。	・全職員が取組を共通実践しているので3学期も継続していきたい。	
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100			94.4					
			集計	100			97.0					
	指導力の向上	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	①②の平均が 中間・・・80%以上 期末・・・90%以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	100	90.5	-9.5	100	88.6	-11.4	①②の教員は、ともに100%だった。 ①の児童は88.6%で目標指数としている90%にやや足りなかった。 ②は目標指数としている割合を越えることができた。	・特に①②について教師の意識は高く、児童の姿に手ごたえを感じている。 ・一方で、児童は①「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と思っていない児童がいる。より多くの児童が意欲的に全員参加できるように、3学期も意図的な取組を進めていく。 ・③は取組の結果、教師の意識が大きく上がった。3学期も継続して児童に意識させたい。
				② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	89.5	90.2	0.7	100	92.2	-7.8		
				③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	78.9	87.9	9.0	94.4	89.8	-4.6		
				④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている。	94.7	91.7	-3.0	94.4	91.4	-3.0		
				⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	94.7	91.7	-3.0	100	86.8	-13.2		
				⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	100	95.5	-4.5	88.9	97.3	8.4		
	集計	93.0	91.3	-1.7	96.3	91.0	-5.3					
学力の向上	カリキュラム・マネジメント	①②がそれぞれ、90%以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	100			100			①②③とも、しっかりと意識した取り組みがなされている。 ④については、小中連携の会もあり、ある程度の情報を共有することができた。	・引き続き職員間での情報を共有し、取組を継続していく。 ・小中連携の機会を設け、情報を共有する。	
			② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	100			100					
			③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100			100					
			④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)	78.9			83.4					
集計	94.7			95.9								
家庭学習	①②がそれぞれ、90%以上	① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。	94.7			100			①について、職員間でしっかりと共通理解をはかることができた。 ②について、児童が家庭で学習用端末を活用することについて、90%を下回る結果となった。	・引き続き、職員間での共通理解を徹底する。 ・家庭でうまく学習用端末がつかない、活用できない児童もいたため、そういった児童に別課題を用意するなど対応を考えていく。		
		② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	94.7	87.1	-7.6	100	81.4	-18.6				
		集計	94.7	85.1	-9.7	100	79.5	-20.5				